陳述書

平成２０年2月１７日

作成

住所　■■■■■■■■■■■■■■■■
職業　大学生
氏名　■■■■■■■■■■■■■■■■

私は平成１１年4月に小平市立小平第五中学校に入学してから、平成１４年3月に卒業するまでの約3年間、疋田先生にお世話になりました。主に理科の授業でお世話になりましたが、その授業はとても分かりやすく、なによりも生徒たちに理科に対する興味を強く持たせるユニークな授業だったと思います。

陳述するにあたりまず、私の家族構成を述べておきます。母、私（長男）、次男（一学年下）、三男（四学年下）の4人家族です。2人の弟も同じく小平五中に通っていましたので、当時の学校の様子、実態を分かる範囲で出来るだけ詳しく述べていきたいと思います。

①、平成１５年9月２５日の要望書について

三男が当時、一年生でした。
母はこの要望書をこの平成２０年1月まで見たことも聞いたこともなかったと証言しています。この要望書を見た母は２００件以上の苦情や意見という記述について、当時を振り返って考えると先生を擁護する意見がほとんどで、苦情は少なかったんじゃないか、苦情はあったとしても一部の人間が多く出していたのでは、と証言しています。私も三男も疋田先生の授業を受けていた当時、その授業について母におもしろい授業だったと話していましたし、母も近所の保護者たちから疋田先生の評判は聞いていました。
そして母が聞いた近所の噂では、ＰＴＡの一部が校長などと結びついて疋田先生を辞めさせようとしていて、周りの保護者は黙っているだけだったということでした。噂ではありますが、当時のＰＴＡにはそういった雰囲気があったのは間違いないようでした。母はこの要望書について言葉の端々を少しかえて事実をねじ曲げてないか、これならみんな悪者にされてしまうのではとも証言しています。

三男の友人で当時一学年の各クラスにいた数名（当時ソフトテニス部に所属していた者も含む）にもこの要望書を見てもらいましたが、ソフトテニス部の項目、授業中の項目には事実と異なることが多数あることがわかりました。彼らが覚えている範囲での事柄をまとめると次のようになりました。

・ソフトテニス部の項目については、部に所属していた生徒は皆、見たことや聞いたことがないものばかりだと証言している。

・授業中について
「①　平成１４年度１学期から、一年生の授業中にたびたび「市教委、教育長、校長が悪いんだ。おれは悪〈ない」と攻撃的な口調で話していた。そのためにたびたび授業が 30 分以上もつぶれた。その間保護者より「やめて欲しい。」と苦情が殺到し、「もうやらない」と謝罪したにもかかわらず、何度も繰り返し授業をつぶしている」

や

「②　平成 15 年 1 学期中に 1 年生の理科の時間で①と同じことをやっていたので保護者が直接学校に抗議をしたりすると翌日の授業で「誰の親が自分を批判したのか。自分には弁護士が二人もついていると親に言っておけ。」と生徒たちをおどすようなことを言った。」

といったことは実際なかった。

「③ 車通勤の件で注意され教頭先生とのやりとりをボイスレコーダでひそかに録音し、授業中に生徒たちに聞かせた。」

これについては授業中ではなかった。

「⑤　毎回テストの点数を読み上げながら返却していたので、病欠のため 0 点だった生徒がこれをきっかけに不登校になった。」

私が在学していた頃は、欠席の生徒の点数は読み上げることはな〈、平成１４年当時は、点数は読み上げていなかった。

「　⑩　教科書や他の理科教師たちとかけ離れた授業なので、受験がとても心配だという声が毎年多数あがるが、指導方法は全〈改善されていない。」
「　⑪　学年がかわり、理科の担任教師が変わると、「理科の授業がこんなに穏やかなものだと初めて知った。」と子供たちが親に訴える」

私も三男も疋田先生の授業を受けていましたが、前述のとおり、おもしろ〈分かりやすい授業だったので、受験が心配だというのが多数あがったというのには疑問です。受験当時の周りの生徒には心配だと言っていた者はいなかったと思います。⑪のような訴えは、悪い意味の訴えではな〈、疋田先生の授業が他の先

生方の授業と比べて衝撃的であり熱い授業だったからではないかと思います。

要望書　要望　の「これらの苦情や生徒が実際に親に訴えた事柄は、ここ2，3年の内容です。」という記述について

私は平成１４年3月まで在学していましたが、卒業までの疋田先生、周りの生徒、保護者など学校の雰囲気を考えるとこの記述には疑問を感じます。この文章が出されたのが平成１５年で、私の卒業が平成１４年であるからであり、前述のようにいくつかの疑問もあるからです。私が平成１４年3月に卒業するまでに、疋田先生の指導方法が問題にされたことは記憶にありません。次男が三年生に進級する平成１４年４月に澤川校長、岡崎教頭は赴任してきました。このときから、徐々に学校の様子が変になったと、次男は証言しています。その一例が、兄弟3人が在籍していたバスケットボール部ではっきりしました。

②、バスケ部について

　平成１５年4月私、次男がお世話になった顧問の岩本先生が、車での通勤禁止を固辞したため異動になりました。三男が入学した春のことです。顧問がいなくなり、後任もいなかったことからバスケ部の顧問は澤川校長と岡崎教頭が担当しました。
三男は入部してもしばらくバスケットシューズ（バッシュ）を用意できず、練習のたびにバッシュを買ってくるよう言われていました。金銭的に余裕がなかったため、すぐには用意できませんでした。ようやくバッシュを購入し練習に行き始めましたが、
突然、顧問の岡崎教頭より一年部員のバッシュの使用禁止を命じられました。三男も母も戸惑い、理由を何度か訊ねました。しかし、明確な返答はなく、苦労してバッシュを用意した母も怒りました。それまでも岩本先生がいた頃にはなかった連絡漏れや理不尽な部の対応もあって、三男は退部しました。そのころのバスケ部はいわゆる土台がなく、ガタガタでした。なにより部の生徒たちが不安に陥っていました。
そういったことからも顧問であった両者は教育者として適正を欠いているのではないかと考えます。

③、当時の生徒（一年生）の様子、三男やその友人が目撃した疋田先生と澤川校長、岡崎教頭のやりとり

生徒たちは、「なんでジョニー（疋田先生）がクビになるのー、向こう（澤川校長、岡崎教頭）の方がわるいのに、ジョニーは校長に嫌われていたんだ･･･」など男女問わず言っていたそうです。（三男証言本人の言葉通り）
離任式の日には、ソフトテニス部に所属していた当時一学年の生徒たちは、「ジョニーを返せ」と繰り返し叫んだと本人たちは言っていました。

つまり疋田先生は生徒に慕われていたのではないかと考えられます。

そして、三男は平成１６年４月の離任式のあと、校庭で疋田先生がソフトテニス部の生徒と話していて、それを邪魔をするかのように岡崎教頭が「部外者は帰って〈ださい」といったニュアンスで何度も疋田先生に話しているのを、目撃していました。疋田先生が免職になる前から、三男は職員室前で疋田先生と澤川校長が言い合いをしているのをたびたび目撃し、三男が感じた印象は澤川校長がグチグチと嫌みったらし〈言っていたといいます。

当時在学していた者に直接話を聞〈と、ずいぶんと学校側（当時の澤川校長、岡崎教頭）によって、事実をねじ曲げられていることがわかります。生徒たちから慕われていた教師を生徒たちから遠ざけたのです。

これらの事が、疋田先生が分限免職になったことは間違いではないかと判断する一助になれば幸いです。